

**華麗な一撃は、もういらない。**

**「ナイスショットを打たなくても迷惑にはならない。しかし、ミスは確実に迷惑になる。」**



ナイスショット

あれば嬉しい「副産物」



ミス

環境を破壊する「行為」

# 「一本の華麗な ナイスショット」を 追い求める悲劇。

ラリー練習の構造を完全に取り違え、  
自ら大量のミスが発生させる。



# ミスが引き起こす3つの連鎖破壊



1. ラリーが途切れる

2. 相手の練習時間が消滅する

3. お互いのリズムが壊れる

~~自己責任~~

他者の時間の窃盗

ミスは個人の失敗ではない。共有している「相手の貴重な環境と時間」の破壊である。

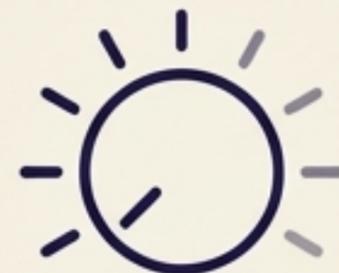


確実に上達するプロフェッショナルの出発点。  
それは常に「ミスをしない」という前提から始まる。

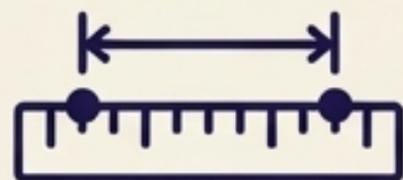
# リスクを排除する4つの基礎管理



無理な体勢で打たない



出力をコントロールし、抑える

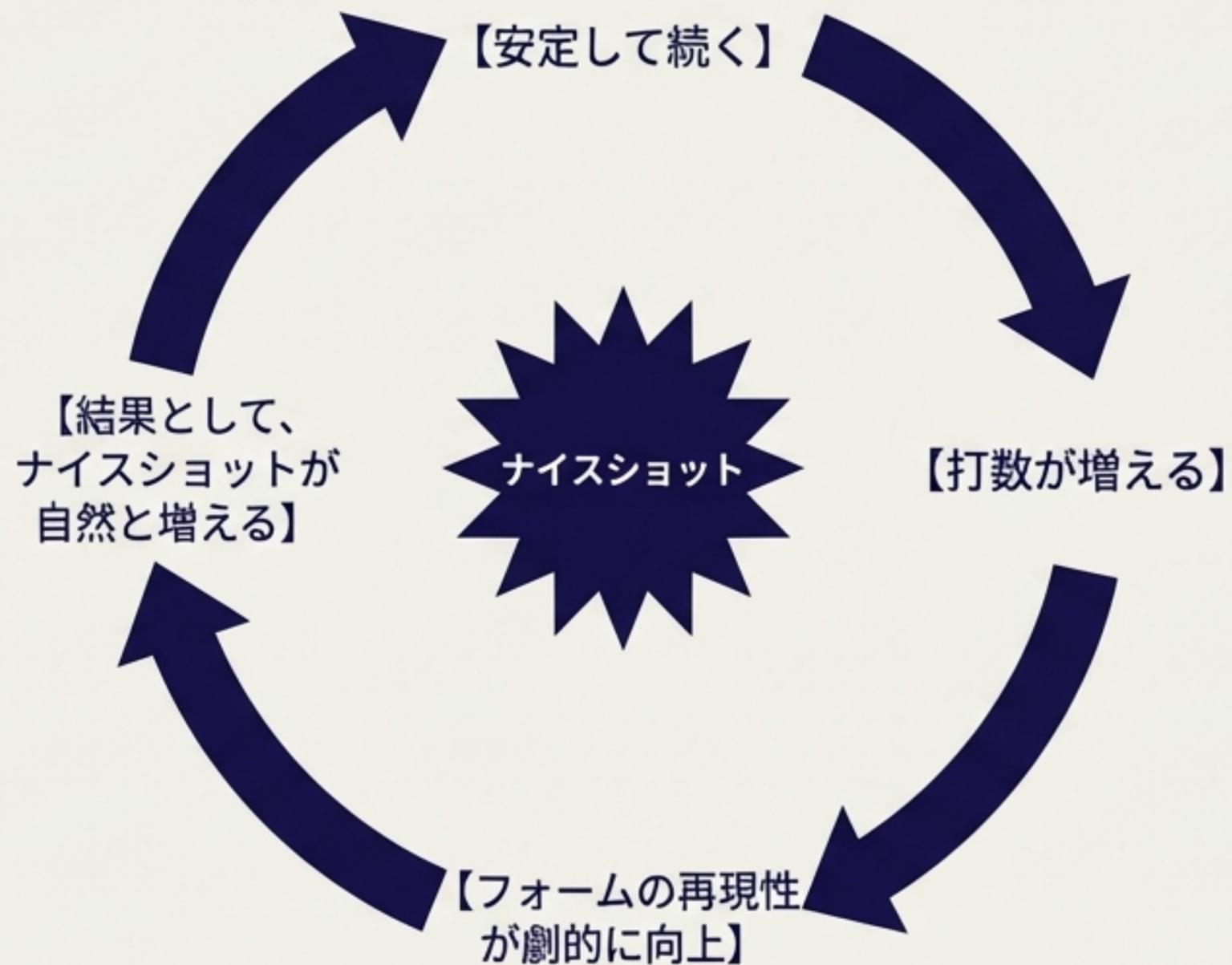


安全な距離感・ポジショニングを保つ



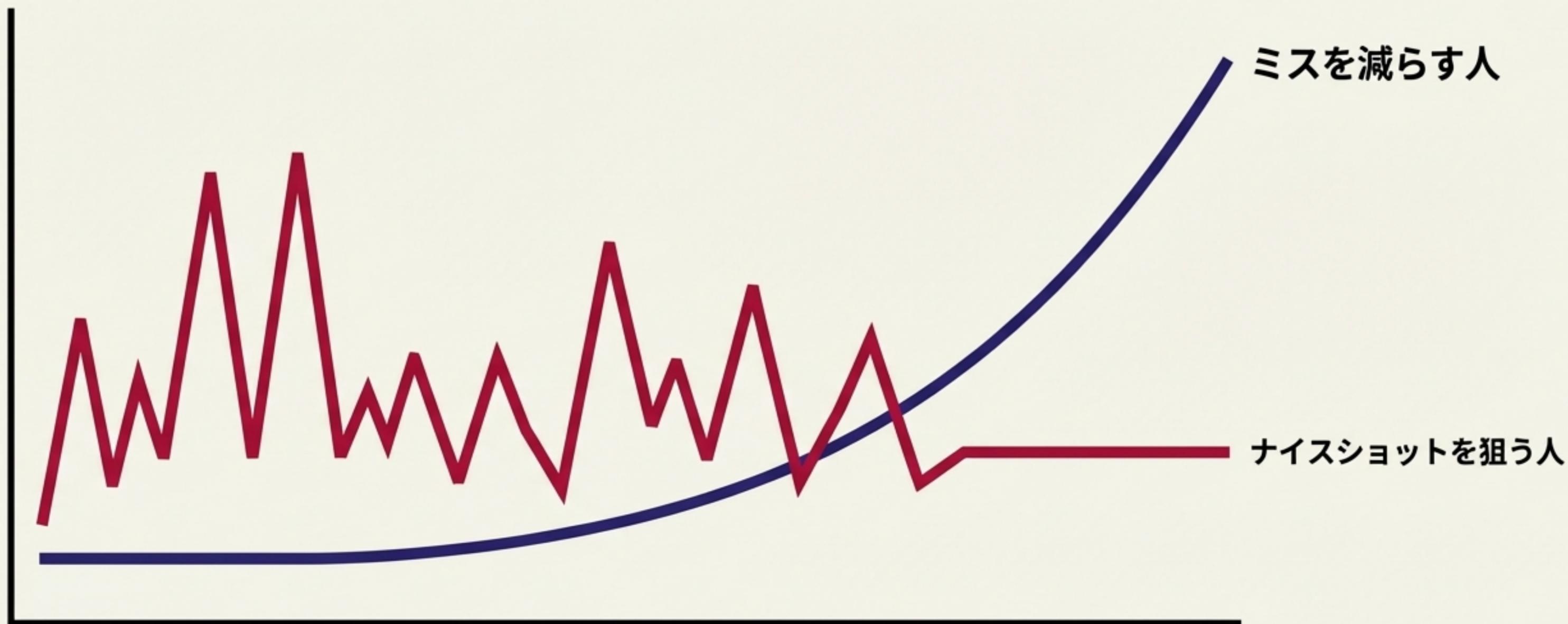
ラケットの面を安定させることに集中する

# 圧倒的な成長を生み出す「継続のループ」



**結論。**

**ナイスショットを狙う人は伸びず、ミスを減らす人が伸びる。**



# バドミントン界の世界七不思議。

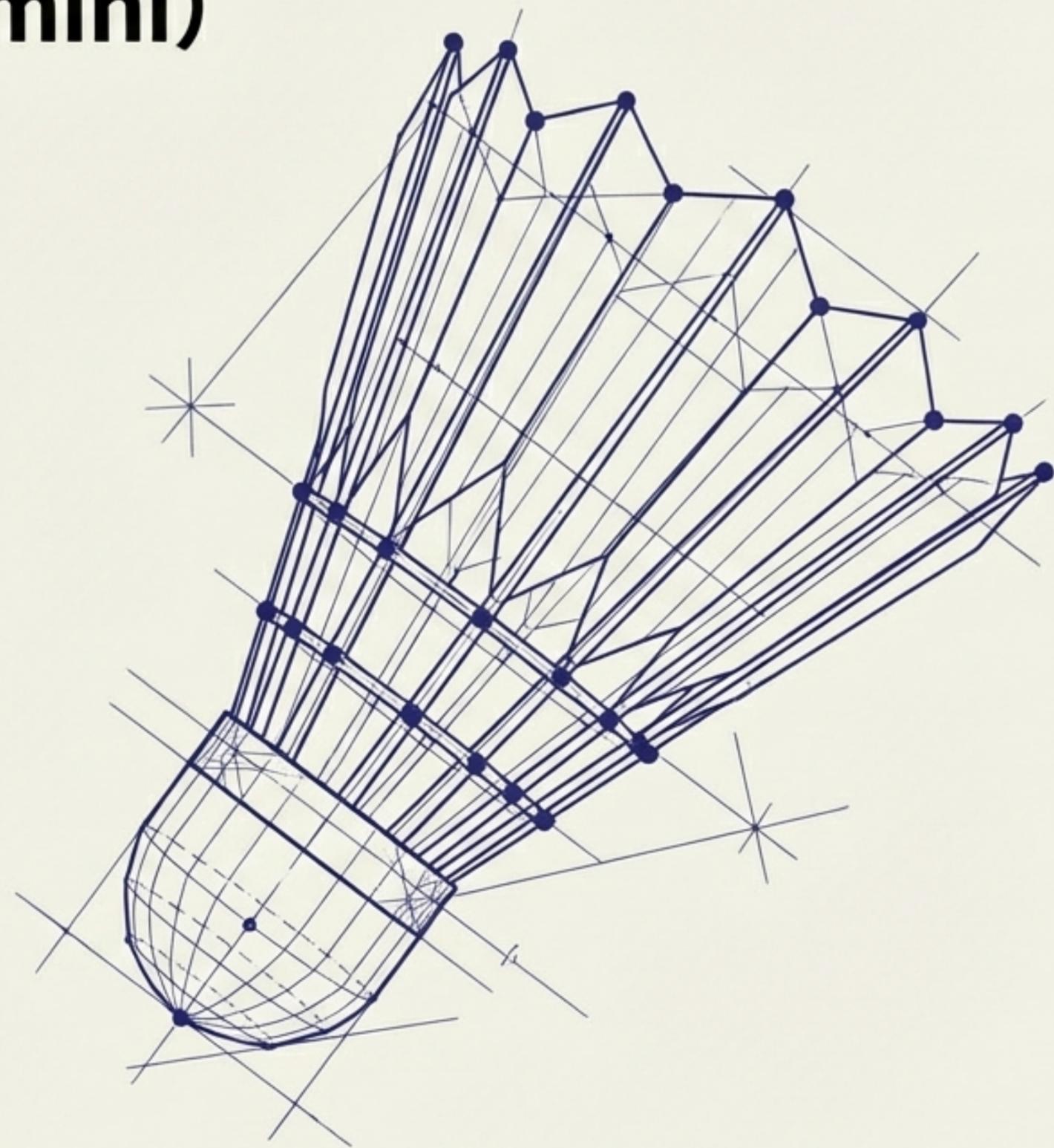
最大の価値は「続くこと」から生まれる財産（リズム、体力、再現性）であると論理的には明白なのに、多くの人々が自らそれを壊し「魅せる一発」の誘惑に負ける。

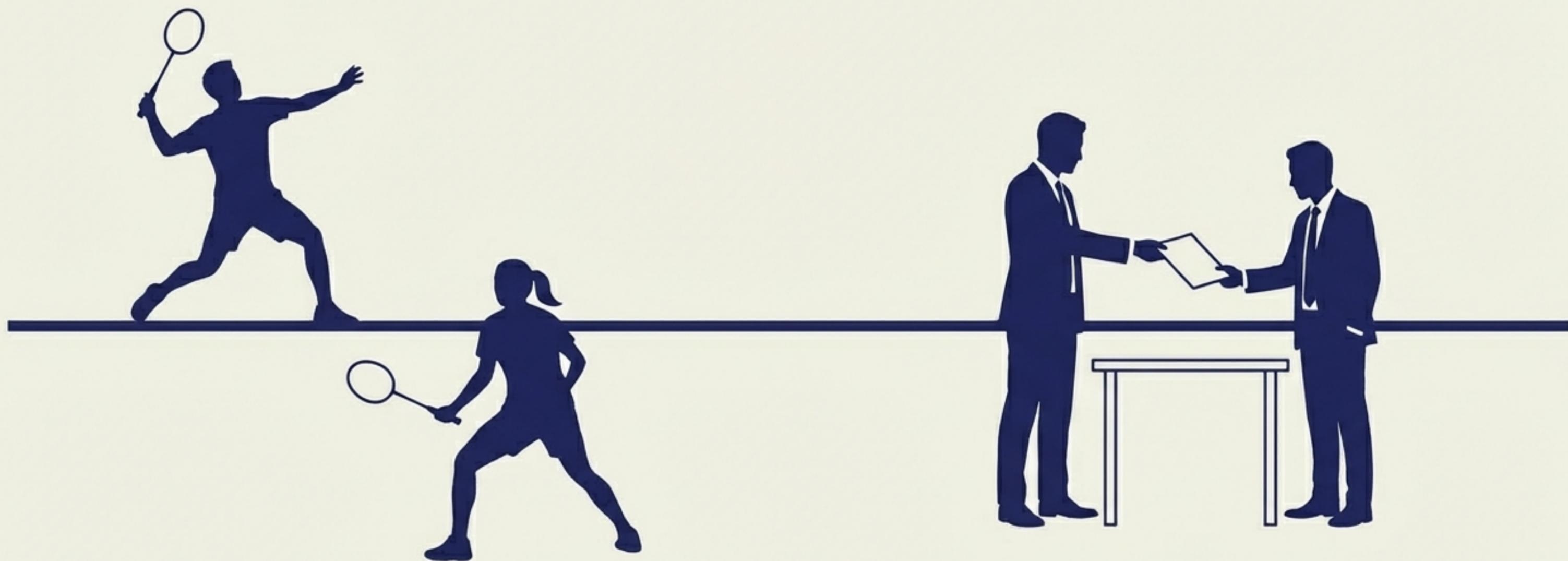


# 世界一の読解力を持つAI (Gemini) が見抜いた普遍の真理。

「これはバドミントンというスポーツの枠  
を大きく超え、仕事や人間関係、あらゆる  
スキルの習得に通じる真理である。」

「エラーを減らし、安定した出力を継続す  
ることの重要性。」





コート上の「ラリー」は、仕事の「プロジェクト」である。

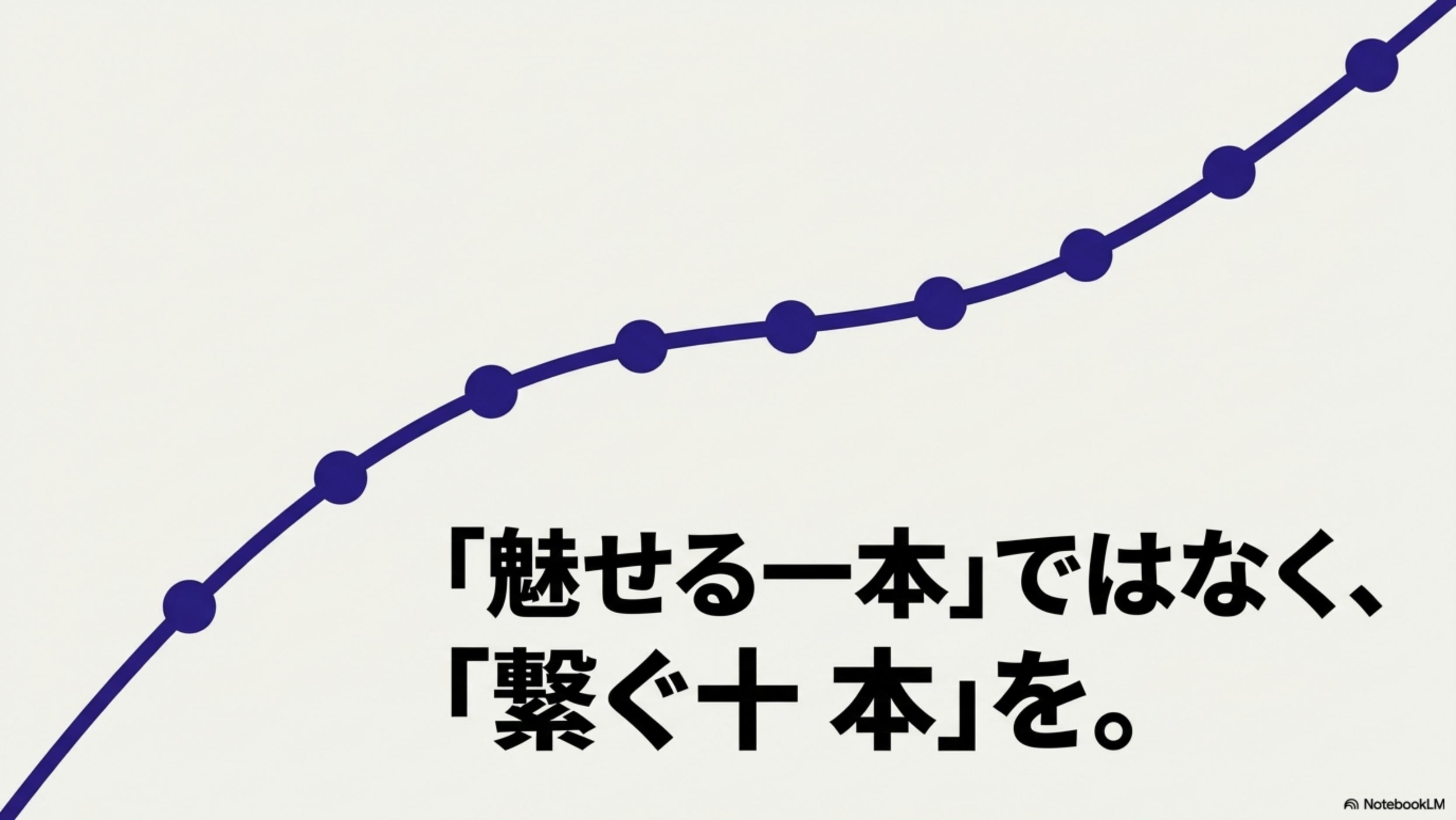
**自分のミスが「相手の時間を奪う」という視点は、他者へのリスペクトと全体最適の精神そのもの。**

相手とのラリーを紡ぐ実直な姿勢こそが、最も美しい「ナイスショット」を生む。

## 明日からの自分の仕事に、 この2つの問いを突きつける。

- 「今日のラリー（業務・対話）で、私は相手の時間を何分創り出せただろうか？」

- 「ミスをした時、それは『**防げたミス**』だったか、それとも**エゴ**による『**無理**をしたミス』だったか？」



**「魅せる一本」ではなく、  
「繋ぐ十本」を。**